

鳥獣被害防止総合対策事業の評価報告(平成28年度報告)

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	事業内容	対象鳥獣	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
					被害金額(千円)				被害面積(ha)						
					基準値	目標値	実績値	達成率	基準値	目標値	実績値	達成率			
A	B	C	$\frac{A-C}{A-B}$	A	B	C	$\frac{A-C}{A-B}$								
瀬戸市鳥獣被害対策協議会	瀬戸市	H26~28	・侵入防止柵の整備 ・有害捕獲 ・センサーユニット付き箱わなの導入	イノシシ	1,116	725	1,286	-43%	2.59	1.68	2.58	1%	○低調 (被害金額、被害面積のいずれも目標の70%達成できなかった。) イノシシの捕獲頭数は増加し、イノシシの被害面積は若干減少した。柵設置箇所において、被害を減少(現段階における平成26年度及び平成28年度に設置した防除柵受益地域における被害報告は0件)させるなど、一定の効果もあげているが、本市において近年のイノシシの頭数増加や被害地域の広がりは著しく、対策の手薄な住宅地付近の田畑への侵入により全体的には被害が多くなったため、平成24年度の実施値に基づいて策定した平成26~28年計画の基準値、目標値を達成できなかった。 愛知県農業総合試験場企画普及部 専門員 辻井修 氏 侵入防止柵整備事業を実施した地区の被害が解消されたことは明るい材料である。地区の共有財産として住民ぐるみでの侵入防止柵の保守点検に努め、効果を維持していただきたい。侵入防止柵は単純にイノシシを食い止めることのみならず、事業を通じた地域の結びつきの強化による社会関係資本の充実も目指したいところである。また、先行事例の情報を共有し、市内で広く侵入防止柵整備事業を実施することで被害軽減が期待される。捕獲頭数は増加しているが、従事者の負担軽減や人材育成が引き続き重要な課題である。有害鳥獣捕獲における狩猟免許を有さない捕獲従事者容認事業を活用し、捕獲活動の裾野拡大をお願いしたい。また持続的な捕獲のためには従事者の意欲向上が不可欠であることから、捕獲個体の有効活用についても検討していただきたい。	整備事業による侵入防止柵の設置が一定の効果も上げていることから、今後も保守点検に努めることで被害を最小限に留められると思われる。未整備地区への推進も合わせて進めることで、対策の進展が期待できる。 瀬戸市は尾張地域におけるイノシシ分布拡大の重要な対策ポイントとなることから、引き続き捕獲にも力を注ぎ、対策を強化していただきたい。	
春日井市鳥獣被害防止対策協議会	春日井市	H26~28	・侵入防止柵の整備 ・有害捕獲 ・箱わなの導入	イノシシ アライグマ ヌートリア ハクビシン	882	-	825	-	2.70	1.89	1.12	195%	○ほぼ達成 (被害金額は達成できず、被害面積は70%達成できた。) 春日井市鳥獣被害防止計画「被害の軽減目標」には被害面積の目標のみの記載であり、被害金額の目標値を設定していないため、被害金額の達成率の算定はできない。 農作物被害減少率195%は大いに効果が発現されており、目標を達成したと評価している。 獣種別にみると、イノシシについては、侵入防止策と箱わなの一体的な設置により、効果的な捕獲ができたことから被害金額・面積が減少した。 アライグマや(ヌートリア及び)ハクビシンについては、効果的な箱わなの設置により、捕獲数が増加したことから、被害面積が減少した。(ただし、アライグマについては、単価の高い果樹(ぶどう)の被害が増加したため被害金額は増加) 愛知県農業総合試験場企画普及部 専門員 辻井修 氏 対象の獣種全てで対策の効果も得られており、地域ぐるみによる被害防止活動が成果も上げたと考えられる。今後も同様の対策を継続していただきたい。 捕獲に関しては、わなの増強により捕獲頭数が増加した。今後は捕獲数は横ばいもしくはやや減少する可能性があるが、意欲を失わずに粘り強く続けていただきたい。 電気柵及びワイヤメッシュ柵による対策もイノシシに対して奏功したと思われる。これらの侵入防止柵はこまめな保守点検による機能維持が重要である。一部のみに負担が集中することがないよう適切な活動体制を整え、捕獲と合わせて継続的に取り組んでいただきたい。	被害面積による事業評価を実施しているが、農作物の種類によって単位面積当たりの生産額が大きく異なるため、被害金額による評価も合わせて実施することが望ましい。 春日井市は岐阜県境方向からの野生鳥獣分布拡大を防ぐための重要なポイントとなることから、捕獲を担う人材育成等を含めた総合的対策の強化が期待される。	

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	事業内容	対象鳥獣	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
					被害金額(千円)				被害面積(ha)						
					基準値	目標値	実績値	達成率	基準値	目標値	実績値	達成率			
A	B	C	$\frac{(A-C)}{(A-B)}$	A	B	C	$\frac{(A-C)}{(A-B)}$								
知多市鳥獣被害防止対策協議会	知多市	H25	・捕獲檻の導入による個体数調整 ・講習会の開催等	ヌートリア カラス ヒヨドリ カワラハチマシ スズメ ハクビシン	6,739	4,700	6,924	-9%	6.76	4.70	5.46	63%	<p>○低調 (被害金額、被害面積のいずれも目標の70%達成できなかった。)</p> <p>(鳥類) 市単独事業で猟友会に委託してカラス、スズメの有害捕獲を進めており、有害捕獲羽数も平成27年度195羽を平成28年度329羽まで増やしているが、被害が面積・金額とも増加あるいは高止まりしている。佐布里池が市内中央部にあり、周辺約180haが鳥獣保護区に指定されていることから、近年生息数が増えている。これら鳥類の生息状況の実態を把握し、引続き猟友会に有害捕獲を委託するとともに銃の使えない市街地近郊においては、捕獲檻の設置を検討する。</p> <p>(中型獣) ハクビシンについては、被害面積・金額ともわずかである。一方、ヌートリアについては、被害面積・金額とも高止まりとなっている。両獣とも有害捕獲が被害防止計画の捕獲計画数に届いていないため、センサーカメラにより有害獣の特定と侵入経路を的確に把握し、捕獲檻による効果的な捕獲を進め、被害の減少に努める。</p> <p>市町村等がわな従事者に対して講習会を行い、捕獲技術、安全性等が確保されると認められれば、わな免許を有していなくてもわなを掛けて有害鳥獣を駆除することができる(わな特区の全国展開)制度を活用し、平成26年度から有害獣駆除安全講習会を開催している。平成28年度末で、受講者は66人に達し、農家自らが有害鳥獣の駆除に取組む体制が整った。</p> <p>有害鳥獣駆除協力者謝礼金制度の施行とともに有害獣の捕獲が増えており、本事業で整備した捕獲檻の効果的な設置、センサーカメラによる有害獣の特定等も捕獲数増に寄与している。</p> <p>炭酸ガスを利用した殺処分装置については、捕獲した檻を市役所まで運ぶのに手間がかかるため、捕獲従事者が従来どおり水没による殺処分を行っている状況である。今後は、環境省が推進する炭酸ガスによる安楽死の手法を取り入れるよう捕獲従事者等に周知するとともに炭酸ガス装置の猟友会への貸出等により利用の推進を図る。</p>	<p>愛知県農業総合試験場企画普及部 専門員 辻井修氏</p> <p>農業者による捕獲活動の体制が整い、報奨金、わなの貸し出しなど支援体制も充実している。わなの稼働率は余裕があるので、さらに積極的な取り組みを促すことで、捕獲実績の向上が期待される。</p> <p>課題となる鳥獣種はヌートリア、カラス、スズメであることが明白である。まずはこれからの生息状況を明らかにすることが対策の第一歩であると考えられ、分布や行動様式に基づき地域ぐるみでの対策の方針を決定する。</p> <p>ヌートリアは水路や池近くで生活するので、足跡、フン、巣穴など痕跡調査、センサーカメラによる撮影を実施する。</p> <p>鳥類は日中に視認及び鳴き声で調査できる。環境省自然環境局生物多様性センター「森林・草原の鳥類調査ガイドブック」参考に市内での調査を実施する。</p> <p>鳥害対策では、広いほ場の侵入防止は困難で、捕獲も大きい効果は期待できない。最も重要なのは追い払いである。農作物を自由に食べられる状態を放置せず、農業者以外の地域住民に協力も得られながら常にプレッシャーを与え続けることが大切である。</p>	<p>カラス、中型獣など、都市近郊で問題となる野生鳥獣の対策に積極的に取り組んでいる。</p> <p>特に、鳥類(スズメ、カラス)による被害は大きく、早急な対策が求められることから、鳥獣保護区については県環境部、鳥獣保護区以外は県農業総合試験場や知多農業改良普及課とともに連携し、効果的な被害防止の取組を図っていくことが望ましい。</p> <p>なお、中型獣殺処分用の炭酸ガス装置の配備は、環境省が推進する手法であり、捕獲従事者等への理解促進と利用しやすい仕組みづくりを早急に進め、計画どおり利用していくことが必要である。</p>
岡崎市鳥獣被害対策協議会	岡崎市	H26～H28	・侵入防止柵の整備 ・有害捕獲等	全鳥獣	90,352	63,246	84,865	20%	61	42	43	95%	<p>○ほぼ達成 (被害金額は達成できず、被害面積は70%達成できた。)</p> <p>被害金額は70%以上を達成できなかったものの、平成26年度:97,326千円、平成27年度:95,579千円、平成28年度:84,865千円と年々減少している。</p> <p>当事業により、侵入防止柵の設置を進めてきたことから、侵入防止柵を整備した地域では被害が減少し、市全体として獣害は減少している。しかし、未整備の地域へ鳥獣が移動し、そこでの被害が増加したため、目標が達成できなかった。未整備地区に対しては、優先的に防止柵の整備を進めており、今後も長期的・継続的な整備が必要である。</p> <p>また狩猟者の高齢化や減少によって捕獲が進まず、個体数調整がうまくできなかったことも原因だと思われる。これに対し、狩猟免許取得を推進するため、市の狩猟免許取得支援を活用し、人材確保への取り組みを積極的に行っており、平成26年度:10人、平成27年度:28人、平成28年度:23人が狩猟免許を取得しているが、今後も引き続きこの制度を活用し、人材確保に取り組む。</p> <p>さらに、鳥獣害対策の専門家等による鳥獣の生態・対策に関する学習会を開催し、引き続き総合的な対策を継続していく。</p>	<p>愛知県農業総合試験場企画普及部 専門員 辻井修氏</p> <p>地域ぐるみの侵入防止柵の設置は効果を上げており、周辺での積極的な捕獲を組み合わせることでさらに対策が進むと期待される。今後は柵の保守点検活動が重要なので、地域ぐるみで定期的実施する体制を整備していただきたい。さらに猟友会が主たる担い手となっている捕獲についても、地域住民が補助的に関与することで、従事者の負担軽減、わな設置個数確保と管理状態の改善による効果向上が期待できる。活動を通じて地域住民の理解促進と技能向上が進めば、将来の捕獲活動を担う人材も自ずと育成されると思われる。</p> <p>総合評価でも述べられているとおり、持続的な対策のためには人材育成が重要な課題で、マンパワーこそが地域の営農や森林の保全に直結する要素である。愛知県西三河農林水産事務所を始めとする関係機関と協力し、課題解決に向け継続的な支援をお願いしたい。</p>	<p>市東部を中心に侵入防止柵の整備が進み、農地を防御する対策は整いつつある。今後は施設の保守点検が重要である。岡崎市は山間部であっても混住化が進みつつあることから、住民に対する農業、森林、野生鳥獣対策等への関心と理解を促す活動、集落単位での対策活動などが急務であると考えられる。</p> <p>鳥獣被害対策実施隊の充実度は県内随一であるが、今後は隊員以外の地域住民も巻き込んだ活動展開が期待される。また、経験豊富な捕獲従事者の知識や技能を次世代に継承する活動も急務だと考えられる。</p>

事業実施 主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	事業内容	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価																			
				対象鳥獣	被害金額(千円)				被害面積(ha)																								
					基準値 A	目標値 B	実績値 C	達成率 $\frac{(A-C)}{(A-B)}$	基準値 A	目標値 B	実績値 C				達成率 $\frac{(A-C)}{(A-B)}$																		
新城市	新城市	H27	有害捕獲										近年有害鳥獣による農作物被害が増加傾向にある中、捕獲従事者の減少・高齢化により、捕獲に多大な時間と労力、経費がかかっている。 有害捕獲事業の活用により、従事者の負担が軽減され、農作物の被害防止に一定の効果があったと認められる。																				
		H28	有害捕獲																														
設楽町	設楽町	H27	有害捕獲													イノシシ、ニホンジカはじめ多くの獣種で、捕獲が進み、個体数減少に効果があった。 鳥類は、捕獲が進まず、個体数減の効果は低かった。																	
		H28	有害捕獲																														
東栄町	東栄町	H27	有害捕獲																						イノシシは年ごとに出現数の増減があり、ニホンジカの出現数は増加しているが、効率的な捕獲により捕獲総数は増加しており、個体数調整に効果ありと判断する。								
		H28	有害捕獲																														

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	事業内容	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
				対象鳥獣	被害金額(千円)				被害面積(ha)						
					基準値	目標値	実績値	達成率	基準値	目標値	実績値				達成率
A	B	C	$\frac{(A-C)}{(A-B)}$	A	B	C	$\frac{(A-C)}{(A-B)}$								
豊根村	豊根村	H27	有害捕獲									思うように有害捕獲を進めることができなかった。 その原因として、銃、わな等、有害捕獲を辞めてしまう高齢者が増えたことがあげられる。 捕獲計画数を見直すとともに、三大鳥獣(ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル)の効果的な捕獲対策について検討していく。			
		H28	有害捕獲												
豊橋市鳥獣被害対策協議会	豊橋市	H28	・侵入防止柵の整備 ・有害捕獲等	農作物被害	24,915	30,162	38,352	256%	326	346	471	731%	○低調 (被害金額、被害面積のいずれも目標の70%達成できなかった。) 達成率が被害金額では256%、被害面積では730%となっているが、実績値が基準値(平成23年度実績)、目標値(平成30年度)ともに超過しているため、総合評価は「低調」とした。 平成28年度も引き続き、捕獲檻・電気柵・ワイヤーメッシュ柵の設置を実施している。また、農業者を中心に組織する地域捕獲団体が新たに3団体立ち上がり、さらに広範囲での捕獲活動が実施された。その効果もあり、イノシシをはじめとする獣類の有害捕獲頭数は平成27年度132頭から平成28年度233頭と増加しているものの、生息範囲も拡大しており、捕獲と防御を精力的に活動されている地域以外へ被害が拡大していることから、結果として獣類全体の被害面積、金額ともに増加している。 また、獣類よりカラスやスズメ等の鳥類による被害が深刻となっている。対策としてカラス檻の設置と猟友会による有害捕獲を実施しているものの、有害捕獲羽数をスズメは平成27年度0羽から平成28年度600羽と増加させたが、カラスは有害捕獲数が平成27年度645羽から平成28年度324羽と減少したことも影響し、被害は継続して増加している。その結果、鳥類・獣類合わせた市全体としても被害額・被害面積ともに増加した。今後は獣類への対策を継続するとともに、鳥類による被害を減少させる取り組みを重点的に実施する必要がある。具体的には自作のカラス檻で捕獲実績を上げている地域捕獲団体の情報提供や他地域への自作カラス檻導入を推進していくこととしている。	愛知県農業総合試験場企画普及部 専門員 辻井修氏 イノシシについては広範囲での侵入防止及び捕獲活動を進展させることが現状考え得る最善の策であるので、今後も取組を継続していただきたい。これらの活動は鳥獣被害防止のみならず、地域の結束を高め社会関係資本を充実させる効果も期待でき、地域営農の基盤をより強固なものとしてくれると考える。 鳥害対策もイノシシ同様に、地域ぐるみでの取組を本格的に検討すべき段階にあると考えられる。まずは対象となる鳥種の行動を調査し、多数が集結する地点の特定が先決である。鳥害対策は「鳥と人間との緊張関係の維持」が重要である。したがって、猟銃使用が可能なエリアでは散弾銃を用いた定期的な追い払いを行うとともに、農作業や散歩の時は猟友会員と同じ橙色の衣服をまわってロケット花火を携行し、カラスやヒヨドリを見かけたら必ず追い払うなど、地域のマンパワーを前面に押し出した活動を検討していただきたい。	イノシシなどの大型獣対策においては、従事者容認事業を積極的に導入し、地域捕獲団体の活動支援を継続してきたことが大きく実を結びつつある。被害や捕獲頭数が減少するとどうしても活動の手が緩みがちとなるため、持続的な取組となるよう支援が必要である。 市内は全国屈指の園芸地帯であり、カラス、スズメ等の鳥類対策は非常に重要で、成果が得られればモデル的な活動事例としても極めて価値が高い。鳥類は生息状況や生態に未解明な点も多く、技術的にも難易度は高いが、猟友会、県環境部、農業総合試験場、県農林水産事務所及びJA豊橋とも連携し、被害防止計画に掲げた有害捕獲計画数の実行と実用化された技術の積極的なリサーチと導入を進めていくことが必要である。
				カワウ	240	120	240	0%	-	-	-	-			

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	事業内容	対象鳥獣	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
					被害金額(千円)				被害面積(ha)						
					基準値	目標値	実績値	達成率	基準値	目標値	実績値	達成率			
A	B	C	$\frac{A-C}{A-B}$	A	B	C	$\frac{A-C}{A-B}$								
蒲郡市鳥獣被害防止対策協議会	蒲郡市	H28	・侵入防止柵の整備 ・有害捕獲等	イノシシ ニホンジカ アライグマ ハクビシン ヌートリア カラス ヒヨドリ カラハト ニホンザル	2,088	1,400	2,824	-107%	8	5	3	174%	<p>○ほぼ達成 (被害金額は達成できず、被害面積は70%達成できた。)</p> <p>被害金額・アライグマ、ハクビシン及びカラスは目標値を達成しているが、イノシシ及びヒヨドリにおいては、基準値を上回る金額となった。特にイノシシについては大幅に上回る結果となっている。</p> <p>被害面積・・・イノシシ以外の対象鳥獣では、目標を達成し、全体合計では、達成率173.6%となった。</p> <p>昨年度に引き続き、ワイヤーメッシュ柵の整備、捕獲檻の設置を行った。ワイヤーメッシュ柵の整備を行った地区では、被害の減少及び捕獲数の減少が見受けられ、事業の効果がみられる。</p> <p>一方で、ワイヤーメッシュ柵が未整備である市中央部の山側では、被害の増加及び捕獲数の増加が見受けられる。ワイヤーメッシュ柵の未整備地区では、わな免許保持者及び捕獲檻の設置数の増加など捕獲体制を充実させ、捕獲頭数は増加しているが、それを上回るスピードでイノシシが増加しているのが現状である。</p> <p>市全体で見ると、ワイヤーメッシュ柵の整備地区では被害が減少しているため、被害面積は減少しているが、未整備地区に被害が集中し、被害金額は基準値を上回る結果となった。</p> <p>今後、未整備地区でのワイヤーメッシュ柵の設置と既整備地区ではこまめな点検、補修など維持管理を適切に行うよう指導する。</p> <p>また、受益地内に残存した個体の捕獲又は追い払いを進めるとともに、狩猟免許取得推奨や効果的な捕獲技術の情報収集、利活用をさらに進めていくことで、捕獲体制の一層の強化・充実を図っていきたい。</p>	<p>愛知県農業総合試験場企画普及部 専門員 辻井修 氏</p> <p>イノシシの被害が減少せずに苦慮している。ワイヤーメッシュ柵の保守点検を行って引き続き有効活用するとともに、今年から導入された「有害鳥獣捕獲における狩猟免許を有しない捕獲従事者容認事業」を最大限に活用することでわなの稼働率及び捕獲効率をさらに向上させ、引き続き対策の進展をお願いしたい。ハクビシン、カラスについては前年度から比べて大幅な進展が認められ、農家及び関係者の努力の成果であると考えられる。今後も引き続き対策に尽力願いたい。</p> <p>鳥獣被害対策は画期的な装置等の開発は望めず、結局のところは現場で実際に対策を行う人々の力に負うところが大きい。例えて言うならば、道具がいくら進歩しようとも結局は競技者自身の能力がものをいうスポーツのようなものである。地域ぐるみで意欲的に取り組むことが重要となるので、今後も対策を実践する人々に焦点を当てた支援策を講じていただきたい。</p>	<p>有害鳥獣捕獲は、農業者による捕獲隊の活動支援により今後の進展が期待される。地元猟友会との協力関係強化が課題であると思われ、両者の相互理解を促す必要がある。</p> <p>イノシシ対策については、侵入防止柵と捕獲に加え、環境整備が課題である。特産の柑橘栽培において、摘果した果実の処分方法、放置樹や休作園などの実態調査と対策が急務である。</p> <p>また、中型獣及び鳥類の対策も引き続き重要なテーマとなるため、関係機関と連携し、多様な取組を進めていく必要がある。</p>